



# 「〇〇する」「〇〇しない」教育

「〇〇の秋」と言いますと、それぞれの思いが込められますが、学校では、この良い季節に「勉強の秋」をオシタいところですよ。さて家庭での勉強というと「宿題」ということになりますね。

明治の時代から続く宿題ですが「宿題をやめた学校」もあるとか。仮に今、うちで宿題をなくしたらどうでしょう。先生も準備や見届けから解放され、おうちでは定番の「宿題やったの？」が必要なくなり、家庭平和につながるかもしれません。良いことづくし？

しかし、まだ自分で計画を立てて学習できる子は少ないようです。小学生の間は、学んだことをしっかりと練習して身に付ける習慣、また、与えられた課題をこなす責任感。どちらも大人になっても通用する大事な力として育てたいと思っています。

子どもは、身体はもちろん

「心」も成長の途中です。誰もが分かってはいるはずなのに、ときに大人は「なんでそんなことしたのっ！」と叱る(怒る?)

ことがあります。私も教師は、子どもが失敗したときにこそ、教諭することが大切だと言

い間かせています。それでも、ほかの子に影響が大きいとなれば、声も大きくなりがち…。

では、教師の声が大きくなる場面を思い起こしましょう。

- ・友達に暴力をふるう。
- ・友達を悪口でからかう。
- ・目の前でこのようなことを目にした教師は黙っておかないでしょう。しかし、ちょっとした行動でも声が出ます。
- ・廊下を走る。
- ・竹ぼうきを振り回す。
- ・石を投げる(ける)。
- ・道路でふざける(遊ぶ)。
- などなど

いずれも目の前で起こった

ことを緊急に止める必要がある時のようです。いくら突発的であろうとも相手にけがを負わすなど重大な事態につながる

がれば、その解決には相当なエネルギーを必要とすること

は容易に想像できます。では、このような事態を防ぐために、子どもにはどんな

力が必要なのでしょう。医学や心理学など専門的な

見解は持ち合わせていませんので、学校で働いてきた者の経験だけで言いますと…

「想像力」+「落ち着き」でしようか。 「想像力」とは、「これをしてらどうなる？」と思いつける力です。そして、そのような考えをめぐらす時をつくる「落ち着き」です。これらを持ちあわせることで、事態の発生を防ぐことにつながると考えます。

一方、このようなリスクを回避する「〇〇しない教育」も

必要ですが、反対の「〇〇する教育」の方がもっと尊い教育だと言えるでしょう。

- ・自分からあいさつする。
- ・困っている人を助ける。
- ・進んで人のために働く。
- などなど

「これをしたらあの人が笑顔になるかな。」「これでみんなが助かるな。」と思いをめぐらしながら行動する。これにも

また「想像力」+「落ち着き」が大切なことはお分かりいただけると思います。

今の子ども(大人も)の周りには、「すぐに答えが出る環境」

にあり、答えを考える、答えを待つことが苦手になっていると感じます。早急な答えと答えが本当かどうかを疑う態度ばかりが育ち、お互いの思いを想像することなく悪い緊張状態にあるように感じます。あくまで古い人間の私見ですが、いかがでしょう。

**ほめてあげてください** 先生方が「あゆみ」に込めた思いは、保護者の皆さんと同じお子さんのこれからの成長です。限られた紙面で精いっぱい表現したつもりですが、十分でない点は、お子さんといっしょに先生の気持ちに思いをめぐらし、ほめる材料としていただけたら幸いです。

# 学校が表彰されました！

令和5年度秋の交通安全運動に合わせて

交通安全にかかわる各種表彰が行われました。

その中で小林小学校が市内で一枚「優良学校」として表彰を受けました。

これは、学校での安全指導のほかPTAのみなさんの取組、

地域を挙げての見守り活動が評価されたものです。

先日の全校朝会で子どもたちと一緒に

「みんなでつくる小林小」の成果として喜んだところです。

これを機に、一層子どもたちの交通安全意識を高め、

交通安全に努めていきたいと思いをします。



「みんなで考え みんなでつくる みんなの小林小学校！」